

平成23年度第3回日出町生活交通確保維持協議会会議録

(1) 日 時 平成23年8月24日(水) 13:55～15:05
場 所 日出町役場 新館3階 331会議室

(2) 出席者 堀田協議会会長・・・日出町
土井協議会副会長・・・日出町区長会
合田委員・・・日出町
河野委員・・・日出町
清水委員・・・国東観光バス(株)
伊豆委員・・・日出町タクシー協会
漢委員(代理:赤嶺様)・・・大分県タクシー協会
天野委員・・・大分県別府土木事務所
宇都宮委員・・・日出警察署
外西委員・・・九州運輸局大分運輸支局
横松委員・・・大分県東部振興局
垣迫委員・・・日出町社会福祉協議会
財前委員・・・国東観光バス(株)杵築営業所
扇谷委員(欠席)・・・大分県バス協会
事務局 越智事務局長、井川、高橋、西原
その他 株式会社地域科学研究所(青木、鎌田)

(3) 議事要旨

平成23年度第3回日出町生活交通確保維持協議会開始(13:55)	
井川事務局長	定刻より5分早く協議会開始。開会あいさつをお願いします。
1. 開会あいさつ	
越智事務局長	第3回日出町生活交通確保維持協議会の開会あいさつ。
2. 会長あいさつ	
堀田会長	前回の協議会で5社選定したが、1社は辞退したので4社になった。午前中、その4社の提案を5名の審査委員で厳正な審査を行い、業者が特定された。調査を行いながら、今年度中の計画策定に向けて取り組んでいきたい。 と、会長としてのあいさつ。
井川事務局長	協議会規約10条により、会長が議長となることを報告し、これからの進行を議長に任せる。

堀田会長	協議会規約第11条第2項により、議長が会議において会議録署名委員を指名する旨を説明し、日出町区長会長の土井功氏と国東観光バス株式会社の清水準一郎氏に署名委員をお願いする。
3. 議事 (1) 経過報告について	
堀田会長	午前中のプロポーザル審査会も含め、議事(1)の経過報告についての説明を事務局に求める。
井川事務局員	前回の協議会で5社を選定し、指名通知を送付したところ、1社より辞退したい旨の連絡があったと報告。8月18日の提案書提出締切日に4社から提出があり、その4社でプレゼンテーション及びヒヤリングを行い、審査及び業者の最終決定を行った旨を報告し、審査結果の発表を行うと説明する。また、発表については、審査結果一覧表を見ながら行うと告げる。
審査結果一覧表を配布	
井川事務局員	審査結果一覧表の見方、審査委員一人当たりの保有得点数、一社当たり500点満点での表記であることを説明し、順番に株式会社地域科学研究所が403.5点、B社が376.5点、A社が373点、C社が365点という結果になったと報告。
堀田会長	午前中、自分を含め互選で選ばれた5人で厳正に審査した旨を告げ、最優秀提案者として選ばれた株式会社地域科学研究所と日出町生活交通実態調査及びネットワーク計画(案)の検討業務についての委託契約を締結することについて、質問、意見を募る。
意見なし 「異議なし」という全員の声をもって承認	
堀田会長	再度、株式会社地域科学研究所が承認されたことに触れ、午前中審査委員に対して行った提案説明と同様のものを協議会で行い、あわせて会社紹介を行うことを提案する。
「はい」という多数の声をもって承認	
プレゼン用資料の配布を行い、室内を配置替えする	
株式会社地域科学研究所入室 プレゼン準備	
堀田会長	プロジェクターの調子が悪いため、配布した資料で提案説明を行う旨を告げ、会社紹介を含めて提案説明を行うよう株式会社地域科学研究所に告げる。
株式会社地域科学研究所 (鎌田)	簡単な自己紹介をし、企画提案書に沿って説明を行うと告げる。 <企画提案書説明> ●2ページ 本社が大分市にあり、県内自治体での手伝いをしている。『私たちは豊かで活力ある地域社会づくりに貢献します。』という経営理念実現

に向け、事業に取り組んでいる。

● 3 ページ

自治体のいろいろな課のいろいろな業務で手伝いをしている。

● 4 ページ

日出町において、平成4年から20年近くいろいろな業務で手伝いをしている。主に税務課固定資産の評価替え業務に携わっているが、図面や現地を把握してないといけない業務のため、現地に行く回数や日出町の図面を見る回数が増えている。これらを今回の業務にも生かして、計画策定の手伝いを行いたい。

● 5 ページ

平成20年以降の同種の業務として掲載している。どの自治体で業務を行う場合であっても、その自治体の特性を考慮して計画を作るよう心掛けている。例えば、津久見市の計画においては、公共交通機関利用者に高齢者と通学生が多いという結果に注目し、学生に高齢者の手助けを行ってもらい『バスサポートアテンダント』という企画を盛り込んでいる。日出町においても、調査結果を踏まえた提案をしていきたいと考えている。

● 9 ページ

公共交通に関する現状把握・分析について、町内を運行する公共交通機関の運行路線、バス停の位置、運行ダイヤ等の基本的なデータ把握を行い、地図情報システム(GIS)に有用な情報を落とし分析し、目で見分ける表現にしていきたいと考えている。例えば、公共交通機関を利用して行きたいと思っている場所(役場や商店街、ショッピングセンターなど)とバス停の場所も含めた既存のバス路線を地図上に落とし、基礎データとなる図面を作成したい。

公共交通機関利用実態の調査について、JR、路線バス、タクシー、コミュニティバスなどの各公共交通機関において、どれくらいの人数が利用しているのか、どういった便が利用されているのか、生活の中で町民はどのように移動しているか、公共交通機関を利用しているのか等を調査して分析を行う。

● 10 ページ

運行事業者のヒヤリング調査については、交通計画策定の手伝いをするに当たり、住民の利便性向上はもちろんのこと、交通事業者にもプラスになるような計画にしたいと考えている。日出町の将来の公共交通体系を考えたときに、事業者と協調して計画を作っていくことが重要だと考えているので、営業範囲や所有車両等の現状から将来の展望

まで聞かせてもらい、一緒に取り組んでいけるように打ち合わせをしていきたいと考えている。

J R利用者のヒヤリング調査について、駅が複数あるが、どういった人が利用していて、どう改善すれば利用しやすくなるのか等を調査して検討していきたいと考えている。利用者に聞く内容として、乗降駅や移動目的を調査し、特に駅に来るまでの方法（自家用車や自転車、徒歩など）の調査をしたいと考えている。さらに、自家用車で来る場合は、どこに車を駐車してJ Rへ乗り換えしているのかを確認したいと考えている。

公共交通機関を考えると、普段自家用車で移動している人に公共交通機関を利用してもらうような計画にするのか、普段自家用車を運転しない人のための計画にするのかという、自家用車の利用をどのように捉えるかが重要になってくると思う。通勤や通学でJ Rを利用する方も多いのではないかとということと、将来的に大分駅が大きくなるので休日にJ Rを利用して大分まで遊びに行くという需要が生まれるのではないかと、調査前での予測ができるので、その際に自家用車はどうしているのかという点を確認することが、今後のまちづくりにおいても重要なデータになるのではないかと考えており、この調査に関しては、駅まで自家用車で来ましたという人に対して少し詳しく質問をしようと考えている。

● 11 ページ

交通空白地域の把握とヒヤリング調査について、駅からもバス停からも遠くて公共交通機関が利用しにくい場所はどこかをGISを使ってデータで把握をしていく。オレンジ色になっている図は、白い部分の中心にバス停または駅がある状態で、その駅やバス停から所定の距離（図では300mや500m）で円を作り、その中にいる方は、そのバス停を利用しやすい環境にいるということになる。この図面で見るとオレンジ色の部分に住んでいる方は、公共交通が使いづらい状況の人になるので、調査員が集落をまわって、普段の移動方法などについて聞き取りを行っていく。個人のヒヤリングでもいいが、地区の集会等を利用してのグループインタビューなど、公共交通を利用する方・しない方のいろいろな意見を聞き、考えてもらうことができるので、現時点ではこの形が良いと考えている。下の右側の写真が、実際にグループインタビューしたときの様子で、テーブルの上に乗っているのは路線図等で、自分が住んでいる地区とバス停・路線の関係を見てもらい、その後意見を聞いている。こういう調査で、住民の生の声

を拾いたいと考えている。

● 12 ページ

町民アンケート調査について、町民の公共交通に対する考え方をアンケート調査で把握したいと考えている。『町民の意見を反映したアンケート結果』ということができるよう、統計学上で必要な標本数を計算（1,030本）し、返信率を40%と想定して2,600通程度と考えている。無作為で抽出したいろいろな方の意見を聞きたいという前提で行う調査で、公共交通機関を全く利用しない方でも納税者として公共交通（アンケート）には参加してほしいので、年齢層や居住地区などの選別は、今のところ考えていない（回答できない年齢層は除く）。

● 13 ページ

アンケート調査の設問について、回答者の詳細が分かるよう年齢・性別・居住地区と可能であれば職業、世帯構成（交通施策に重要にかかわってくるので）等を聞きたいと考えている。自家用車の利用状況、外出状況、公共交通機関の利用状況、日出町の公共交通機関の将来像などを聞く項目を作りたいと考えている。

● 14 ページ

公共交通の利用者アンケートについて、利用者がどう考えているのかを知るために、調査員がバス乗車等を行ってヒヤリング調査をする予定にしている。質問の内容は、利用者の年齢や性別などの他に外出状況（公共交通を利用してどこにどのくらいの頻度で移動しているか）の把握、現時点での公共交通に対する満足度と改善の要望を聞きたいと考えている。

● 15 ページ

計画策定について、日出町の目指すべき姿がどのようなものであるか総合計画で示されていると思うのでその確認を行い、調査を行った公共交通機関の現状や町民の移動状況等を比較し、どの程度の差異があるのか問題点や課題の整理を行っていくことにしている。

● 16 ページ

交通施策の立案の考え方については、三つのポイントを持っている。一つ目は、不公平感のない公共交通体系の構築。二つ目は、効果のある交通計画の策定。三つ目は、町の未来を考えた交通施策の立案。これらの考え方をもとに、いろいろな施策を検討し、提案したいと考えている。

● 17 ページ

交通施策立案の説明をすると、不公平感のない公共交通体系の構築について、住民基本台帳データとGISをリンクさせて町民居住地を点で把握することと不便地域を把握し、近くにバス停がない等の不公平感の解消を行いたい。利用見込み者の所在の把握について、一般的には公共交通の利用は65歳以上の女性の利用が多い状況にあるが、調査結果をもとにそういった特性の方の居住地をGISでチェックし、乗りたい人がいるのに走っていない地域がないか、乗らない人ばかりなのに走っている地域はないかを確認し、不公平感が解消されるような策を検討したいと考えている。目的地の把握について、行きたいところがあるのに公共交通機関で行けないという不公平感が解消できるように、目的地（店、病院、公共施設）・行きたい場所の把握をしていきたいと考えている。これらをすることで必要とする人が利用できて、過度の負担がない公共交通体系を構築していけばいいのではないかと考えている。

●18ページ

効果のある交通計画について、このページに日出町総合計画の人口データを掲載しているが、全体的に見れば日出町の人口は微増傾向にあるものの、増加している地区と減少している地区が存在することが分かる。公共交通に関するニーズは、人口規模や年齢層でかなり異なるので、それぞれについて把握し、計画を策定する必要があると考えている。現時点でこのデータを見ると、日出町が抱えている交通問題の解決に必要なものとして、町の中心部を移動しやすくするための手段が必要なのではないかとということと、過疎化している地区から町の中心部までの移動手段が必要なのではないかと考えている。

●19ページ

町の未来を考えた交通施策について、中心部を移動しやすくするための移動手段として、町の中心部に循環バスを導入してはどうかと考えていることと、過疎化している地区から町の中心部までへの移動手段として、交通空白地域にデマンド交通を導入してはどうかと、現時点のデータがない状態では考えている。町の中心部への循環バス導入というのは、若い世代や子育て中の親、高齢の方が日出町の中で移動をして日常の生活を送ることができるように、日出町自体が発展していくためにも、町中心部の回遊性の強化は非常に重要になると思うので、循環バスという形で検討してみてもどうかと提案している。交通空白地域へのデマンド交通の導入に関して、バスも電車も走っていない地区に住んでいる方で、移動手段がなくて困っている方のためにと

ということで、先ほどの人口分布の状況を見ると、過疎化しつつある地区で交通空白地域が発生しているのではないかと思ったので、そういった地区から、交通結節点であると思われる暘谷駅まで運行するようなデマンド交通を導入してはどうかと考えている。導入に関しては、地区の特性を把握して、地区によって異なるようなやり方でもいいのではないかと考えている。地域福祉計画にアンケートの結果が掲載されており、大神地区では居住年数が長い方が多く、近所づきあいについても『困ったときに助け合う関係だ』と回答した方が50%以上を占めていた。こういった地域は、住民の方が主体となって運行するような交通体系も考えることができるのではないかと思ったので、地区によって特性をいかした公共交通体系を構築すればいいのではないかと考えて提案している。

● 20 ページ

具体的な路線の検討や運行までの計画の手伝いについて、調査の内容で収集したデータをGISに落とし、利用見込み者の把握ができると考えている。運行予定の路線図と住民の居住位置を示し、バス停の位置などを示すことで、住んでいる人とバス停、路線の位置関係が把握できるので、その中でどのくらいの年代の方が何%くらい利用するかということを調査結果から想定される割合を算出し、利用見込み者数の試算を行いたいと考えている。

● 21 ページ

利用見込み者の試算を行った後、実際に運行した場合、利用見込み者の中のどれくらいの人に乗ってもらうのか、日出町にとってどういう形で運行するのがふさわしいのか、利用の目標の設定の手伝いをしたいと考えている。利用見込み人数や目標設定したものと運行の経費を照らし合わせることで、目標達成時の収支の予測も行いたいと考えている。

● 22 ページ

日出町の公共交通の状況について、総合計画と仕様書をまとめたところ、日常的な交通手段を町の実情に即した形で構築することが必要ということや公共交通に関する財政負担が大きくなっているということなどを記載していたので、課題の解決に必要なものとして現時点で提案したのが、町民の日常的な公共交通手段の確保が必要なのではないかとということと、持続可能な公共交通体系の構築が必要であるということと、町の財政負担を今よりも増やさない方策が必要ではないかと考えている。

	<p>● 23 ページ</p> <p>取組の案として紹介すると、高齢者へのデマンド交通の利用促進を図ってみてはどうかと考えている。デマンド交通というのは、使いたい方の予約があれば運行し、なければ運行しないという交通システムだが、1便に何人載るかによって補助している自治体の補填額が大きく変わってくる性質を持っている。表に記載しているとおり、一人あたりの運賃が片道400円で、それを1回運行するために必要な経費が2,000円の路線があった場合、1人しか予約がなくて1人しか乗らなければ自治体の補填額は1,600円になるが、人数が増えることで自治体の負担金額が減っていく形になるので、積極的に電話での声掛け等（今日動くので乗りませんか）を行うことにより、高齢者の利用促進を図るような取り組みをしたらどうかと考えている。下の図にあるとおり、こういった取り組みをすることで、公共交通機関の充実はもちろんのこと、福祉的にも大きな役割を担えるのではないかと考えており、お年寄りの引きこもり防止や安否確認、買い物難民対策などの福祉的な意味合いが大きくからんでくると思っている。自治体の補填額が0円になることはないと思っているが、他の役割を担うことで一石二鳥のような仕組みを作ることができればいいのではないかと考えている。日出町での調査等何もしていない状況なので、この案がそのまま合うかどうか分からないが、今の時点はこういった形を考えており、調査結果をみていろいろな提案をしていきたいと思っている。</p> <p>● 25 ページ</p> <p>計画策定にかかるスケジュールについて、本社が近くにあるので、担当とはいつでも打ち合わせができる状況であり、連携を密にしていきたいと考えている。調査関係を11月までに終了させ、計画案作成の手伝いを1月まで、協議会ではポイント・ポイントでの各種報告等の手伝いを行っていききたいと考えている。</p> <p>当社は、20年間日出町にお世話になってきたので、恩返しのつもりで、町民に喜んでいただけるような計画策定の手伝いができればと思っていると告げ、説明を終える。</p>
堀田会長	株式会社地域科学研究所へお礼を述べた後、委員に対し、計画案ができるまでの長い期間にわたって委託業者との接触があると思うと告げ、説明についての質問、意見を募る。
財前委員	住民調査となっているが、学校等に行くことはあるか、と質問。
株式会社地域	学校等というのは、スクールバスに乗っている子どものことか、と確

科学研究所 (鎌田)	認。
財前委員	当社はハーモニーランドと川崎、大神方面をバスで運行している。年中ではないが各期間によって、幼稚園児や小学生が糸ヶ浜海浜公園等へ路線バスを利用して行くことがある。先日も日出幼稚園の園児60名がハーモニーランドに行きたいと電話があったが、1台では無理だったので、路線バスの臨時便を出して運行した経緯がある。また真那井幼稚園は運動会を必ず合同で行っているので、路線バスを利用して大神小学校を行き来している。日出町において、そういったハーモニーランド等に行く幼稚園児とか小学生の路線バスの学校単位での利用が、特に多い。日ごろは小さいバスで運行しているが、そのときは大きいバスを運行するようにしている。どこそこに行きたいという電話が、各小学校、幼稚園から年間十数回は電話がかかってくる。だから幼稚園、小学校も調査の検討に入れてもらいたい、と意見を述べる。
株式会社地域 科学研究所 (鎌田)	お礼を述べ、そのような日出町の特性等を調査し、情報を収集して、必要があれば小学校や先生、保護者にも調査したいと考えている、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
漢委員代理 (赤嶺)	タクシー協会として、県内あちこちのこういった協議会に参加しているが、コンサルタントが入って行ったアンケートの調査結果と実際に運行したときの結果にズレが生じることを見かける。(地域科学も)過去に津久見市等で調査を行っているので、アンケート結果を基にして提案した部分と実際の運行した部分でズレが生じていると思われるが、地域の実情に即した修復作業等も行っていると思われるので、そういった点も踏まえて計画の提案をしてほしい、と発言。
株式会社地域 科学研究所 (鎌田)	実際、そういった経験もあり、アンケートでの「乗りたい」とか「あったらいいな」という回答と『本当に乗るかどうか』は別物で、こういう点についてはきちんと見極めを行い、計画を策定していきたいと思っている。実際に計画して実施していたものが合わないということであれば、計画の修正等をしていくようになると思うが、契約が終了した後の新年度に発生することになるので、手を付けにくい部分もあると思う。できるだけ長くお付き合いできればと思っているので、今までの成功・失敗の経験をいかして計画策定に役立てたい、と回答。
株式会社地域 科学研究所	仕事をした結果に対する評価について、うまくいったかどうかという判断が難しい。例えば、前年比の乗車率で考えれば増えたという結果

(青木)	であっても、それが本当に住民のためになる交通だったのかどうか、 というような場合。自治体の意向を理解したうえで、まちづくりを起 点とする成功の基準を作り、計画策定を進めていきたいと考えてい る、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
外西委員	調査事業は、国費を使って行われる地域公共交通確保維持改善事業に 基づくものだが、将来的な確保維持改善事業に繋げることと交通ネッ トワーク計画（前年度までは活性化法に基づく連携計画）策定を行う という前提のもとに費用が出るので、確保維持事業の中のネットワー ク計画に合致した、地域内リーダーに結び付けるような形の計画を 作る必要がある。単純に『調査を行った』という形（要綱に合わない 形）だと補助が出ない可能性もあるので、コンサルタントも事務局も 要綱に合致したネットワーク計画策定に繋げるよう進めてほしい、と 発言。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
その他意見なし	
堀田会長	これから株式会社地域科学研究所と委託契約締結を行い、業務を行っ てもらおうと思っているが、それで良いか、と委員に確認。
「はい」という多数の声をもって承認	
堀田会長	承認されたことに触れ、株式会社地域科学研究所に再度これからの業 務をお願いし、事務局から他に何かないかを確認。
井川事務局員	今後の日程について、明日以降に契約締結を行おうと考えていると告 げる。アンケートの内容については、来月の中旬か下旬開催の協議会 において詰めたいと思っているが、9月議会の関係で日程調整が難し いため、現時点では開催日を確定できていないので、決まり次第早め に通知すると説明。
堀田会長	今後の日程について説明があったことに触れた後、9月1日から9月 下旬まで議会が開催される旨を告げ、その間の休会日等を利用して次 回協議会を開催したいが、それがいつになるかは分からないと説明。 日程的にも9月下旬頃までにはアンケート調査の内容等を協議会で 決める必要があるので、アンケートの素案ができたなら委員に配布して 意見等の提出をお願いし、次回協議会の際にはある程度完成したもの を提示したいと発言し、質問、意見を募る。
意見なし	
堀田会長	事務局から他に何かないかを確認。
井川事務局員	ありません、と回答。

3. 議事 (2) その他について	
堀田会長	議事(2)のその他について、何かあるか事務局に確認。
井川事務局員	ありません、と回答。
堀田会長	これで全ての議事を終わると告げ、長時間に渡って協力してもらった株式会社地域科学研究所にお礼を述べる。
井川事務局員	議長にお礼を述べ日程を進める。
4. 閉会あいさつ	
越智事務局長	委員にお礼を述べ、株式会社地域科学研究所とともに望ましいネットワーク計画策定に向けて努力していきたいと告げ、第3回日出町生活交通確保維持協議会の閉会あいさつ。
平成23年度第3回日出町生活交通確保維持協議会終了(15:05)	

平成23年度第3回日出町生活交通確保維持協議会の概要を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名、捺印する。

平成23年 9月22日

平成23年度第3回日出町生活交通確保維持協議会

会議録署名委員 土 井 功 ⑩

会議録署名委員 清 水 準 一 郎 ⑩